

広報

TOBETSU

とほべつ

3

1996年3月1日発行

No.510

発行 北海道当別町 編集 企画部企画課



スツゴク楽しいナ、雪の中……

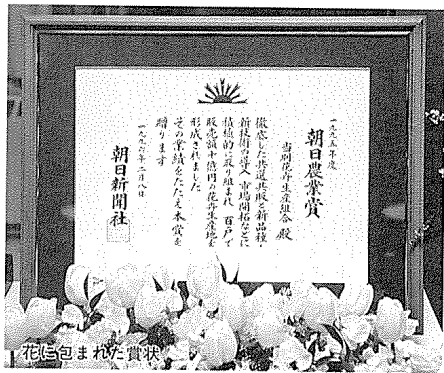
(あそ雪の広場で親子PK合戦を声援する子供たち・2月18日)

町の人口19,921人(男性9,926人・女性9,995人)世帯数6,990世帯(2月1日現在)前月より45人・8世帯増

朝日農業賞受賞記念祝賀会



謝辞のごとばにも力が入る (重原昌章前組合長)



花(白)包まれた賞状

長年の功績をたたえる、祝賀共催会長の伊達町長(2月13日・農業会館)

祝 平成7年度朝日農業賞受賞記念祝賀会



朝日農業賞を受賞

設立23年を迎えた当別花卉生産組合
自主的な創意・工夫と努力がたたえられる

当別花卉生産組合(重原昌章前組合長・101戸)が2月5日、朝日新聞本社で開かれた授賞式で、「朝日農業賞」を受賞しました。

同賞は、創刊85周年を迎えた朝日新聞社が昭和38年に創設した賞で、国内の数ある農業関連の賞の中でも最高位と言われる賞。

受賞の対象は、自主的な創意・工夫と努力により、困難な自然や社会・経済条件を克服し、農業の発展のため著しい成果を上げた営農集団に贈られるものです。

受賞候補集団は、各都道府県所在の同社推薦委員会の推薦によるもので、今年度は全国から45集団が推薦を受け、学識経験者等で組織する中央審査会で厳正に審査されていたものです。

当別花卉生産組合は、昨年10月末実施された中央審査会の現地調査を経てこの度、他の4集団とともに表彰されたものです。

道内からの受賞は9年ぶり、同賞創設以来、日本の農業の活性化に先駆的な役割を果たした全国194の集団が、この荣誉ある「朝日農業賞」を受賞しています。

花卉生産組合 努力の軌跡

昭和47年	6人の若手メンバーで「当別花卉生産組合」設立
49年	町助成によりハウス導入
50年	業者委託による出荷開始
52年	カスミソウ作付開始
53年	カーネーション作付開始
54年	九州市場出荷開始
55年	東京・大阪市場出荷開始
56年	大雨により甚大な被災
58年	JA当別町に組合事務局を設置
61年	共選場設置。予冷庫を導入。共選・共販を開始
63年	JRのクールコンテナ、発砲スチロール箱によるカスミソウの出荷開始
平成元年	組合員数50人突破
2年	共選場を改築。組合員各戸にFAX設置
3年	ハウス整備・種苗購入費につき、町の補助制度が確立
4年	日本農業賞(銀賞)受賞
5年	花卉集出荷施設が当別に完成
6年	販売額10億円達成。全道第1位の月形町に迫る
8年	先駆的な、MA包装によるカスミソウの試験輸送開始
8年	組合員数100人突破
8年	「朝日農業賞」受賞



花卉栽培のめばえ 農業実習が刺激

当別町に切り花栽培の機運が高まったのは、米の生産調整が始まった昭和45年から。

比較的農地面積が少なく規模の拡大が困難だった若手農業者が、それまで副業的に行われていた野菜栽培（ピーマン、単位面積当りの収益が著しく高い切り花栽培）を選択したのが始まりでした。

若い農業後継者らに、町内でもほとんどの経験者がいない切り花栽培を思い切った要因の一つには、当別高校農業科の存在もありました。このころ、花卉生産組合の創設者や現在のリーダー層の中には、同高校が授業の一環として行う切り花農家での実地研修に参加し、栽培技術や経営内容に大きな刺激を受けた卒業生数人が活躍しているのです。

切り花1本が5円 余りの安さに馬のエサ

「当別花卉生産組合」が設立されたのは、今から23年前の昭和47年。現在組合の相談役で、当別高校農業科を卒業した池田悟氏（樺戸町・44歳）が中心となって結成されました。当初のメンバーは6人で、その内の3名は、当別高校農業科卒業後数年の若者たちでした。

組合結成の発端は、花の栽培ハウス建設費補助金の受け皿が必要だったことと、もう一つは花市場の対策でした。

当時札幌の各花市場では、出荷量の多い産地順にセリが行われていました。価格はセリの順に差があるため、出荷量の少ない産地には大変厳しいもので、「花1本が5円」と、余りの安値に持ち返ったある生産者は、腹が立って「馬に食わせた」との逸話があったほど。

市場の厳しい現実を直面した6人のメンバーはその後、栽培面積の拡大とともに、組合員や市場の開拓、生産者が共同で行う「共同選別」や「共同販売体制の確立、新規参入組合員に対する技術援助の必要性を身をもって痛感したので。

以来メンバーは今日も、栽培技術の公開のほか経営規模の小さい農業者には、「花やらんか？」と声をかけ続けているそうです。

伸びゆく当別の花 徐々に規模拡大

昭和53年頃までは菊、グリア、グラジオオラス、バラなどを中心に栽培してまいりました。この頃の出荷先は札幌の市場で、当初は組合員の貨物車での共同輸送でした。

昭和49年には町から3百万円の補助を受け、約4百80万円で10棟の大規模ハウスを建設し徐々に経営規模が拡大され始めました。またこの時期、道内では全く取り組まれていなかった「個選共販」個大選別・共同販売」が12名の組合員で始められ、市場でもやっと一人前に扱われるようになったのです。

この後組合は洋花生産に主力を移し、昭和59年には20戸で1億円の出荷額を突破するに至ったのです。

二つ目は、組合員独自の努力による当初道外への流通は、札幌の市場から他府県の市場へ転送する流通形態でした。しかしこの流通ではメリットが少なく、リーダーは長年の視察で交際を深めていた自由ヶ丘市場（東京都）にサンプルを持って果敢にアタックを試みたのです。

こうした努力が実り、昭和55年から東京や大阪などの新たな花市場への参入が実現したのです。

花のまち とうべつの軌跡



当別花卉生産組合前組合長
重原昌章さん
(青山・41歳)

権威ある「朝日農業賞」の受賞を、心から喜んでいる者の1人です。今101戸にまでなった組合は、昭和47年の設立時はたった6人の若者の集まりでした。以来歴代の役員や組合員は共選・共販出荷に始まり、市場開拓、鮮度保全のための予冷庫の設備、JRのクールコンテナ・発砲スチロール利用による発送手段の改善、さらには近代的設備が整った花卉集出荷施設の自主運営など、常に前進的・積極的な発想で多くの難題を克服してきました。

この度の受賞は、これら組合の長年の自主努力が称えられたものと考えますが、これまで支援・指導くださいました当別町や農協、農業改良普及センター、花市場関係者などの皆様には心からお礼申し上げます。

北海道産の切り花は、今の2倍の出荷量を期待されています。中でも市場では、当別産の切り花に大きな期待を寄せています。仲間や経営規模の拡大とともに、輪を大切にしながら「花の町・当別」を大きく育てて行きたいと願っています。



JA当別町代表理事組合長
伊東定吉さん
(70歳)

この度、栄誉ある朝日農業賞を受賞した当別花卉生産組合は、23年間にわたる常に前向きな活動を通して着実に成果を上げ、花卉を水稲に次ぐ本町第2位に発展させました。

当別町をはじめ、「当別の花」に係る関係機関のご指導・ご支援が相まっての受賞と考えます。同賞は、自主的・内発的創意工夫活動が特に優れ、農業振興に著しい成果を上げた営農5集団以内に贈られる権威ある賞です。

全国から45集団が推薦され、厳しい中央での書類審査により8集団が残りましたが、昨年10月、7時間におわたる当別町での現地審査も行われました。

最終審査では、「新時代の日本農業の道を開拓している先進的な事例」と高く評価されたのであります。当別町の花三かすみ草（＝、1本の枝に数多くの花をつけます。この名譽ある賞の受賞を機に大きく無数の花が咲き、更に躍進することを目指し取り組んで参りますので、今後とも関係者各位の変わらぬご指導をお願い申し上げます。

花のまち とうべつの軌跡

北海道にとって9年ぶりの「朝日農業賞」の受賞。



農業改良普及センター所長
都築軍治さん (58歳)

この栄誉ある賞を「当別花卉生産組合」が受賞したことは、関係者一同喜びに堪えないところであります。

今から23年前、米の生産調整を機に、池田悟氏を中心とする若い農業者6人が花づくりに取り組みました。

水稲と花卉の複合経営で、安定農業を目指す。それが若い彼等の目標でありました。栽培技術が乏しかった当時から、彼等は試行錯誤を繰り返して、日夜栽培技術の研究や出荷方法、奇抜で画期的な流通手段の開発とともに道外花市場の開拓にも奔走したのであります。

そして今、101戸の仲間とともに長年の努力が大輪の花を咲かせ、今回の栄誉に輝きました。

若いリーダーを中心に今後も団結の輪をさらに広げ、益々発展することを祈念します。

公務員を辞めた昭和63年から、水稲が主の農業を継ぎました。



花卉生産組合員
丹野政司さん (東裏・30歳)

花卉栽培は結婚した年の平成2年から、まだ6年目です。花づくりは主に私と妻の担当で、最初の年はカスミノウ約3アールの栽培からの挑戦でした。

昨年はトルコキキョウやミスティープル、カサブランカなど、約22アール作りました。

全くの素人の私達で、最初の内は専門書で勉強しましたが、先輩との交流や研究会などに参加により、大きな失敗もなく今日まで来ました。でも、気温や日照の関係で、目指す出荷予定時期に出荷できず毎年管理に苦労しています。

今年の1月には、組合派遣のオランダ研修の機会も与えてもらいました。労働力などの問題もあって、今のところは経営規模の拡大を考えてはいませんが、諸先輩を師に品質の良い花づくりに努力したいと妻と話し合っています。



均一品出荷と労力軽減 供選・共販で加速

組合設立以来、事務処理などの組合運営に全て組合員自身が行っていたため、事務などは農作業後になり大変な苦労でした。

このため、将来の共選・共販体制も考慮し、昭和58年に組合事務局を当別農協に置くことになりました。もともと、共選の必要性については認識の薄い組合員もいて、リーダーは苦労しながら説得を重ねたのです。その甲斐あって、昭和61年に市場競争力を持つ「完全共選・共販」がスタートしたのです。

しかしこの体制は道外への移出を加速させたものの、生産量の不足から市場の要求に答えられない事態が新たに発生したのです。

そこでメンバーは、若い農業者に「夜打ち朝駆け」で、切り花生産の有利性を説いて回ったのです。

こうした努力により、昭和60年には組合員23戸で1億5千万円の販売額を達成し、花卉品目の切り替えと道外移出の転換が大きく実を結んだのです。

たゆまぬ開拓・研究精神 努力が花開く

昭和60年頃になると、市場関係者から「とうべつの花」として注目さ

花づくりが 当別の農業を変える

生産者の労力軽減や全国の花市場に「当別の花」として均一な花を出荷するために、共選施設は不可欠。

豚舎を改造して利用していた共選場は、平成4年に当別農協が自動化された機器や「予冷库」などを完備した「当別花卉集出荷施設」を上当別に完成させました。

施設は同農協だったものの、内部の設計から予冷库の機種選定など、大部分は組合員の英知が生かされました。施設は組合が農協から賃貸を受け、パート雇用も含め組合が自主運営を行っているのです。

昭和47年の組合設立から今日まで、「花づくりのプロ」として最新情報を組合員一丸となって吸収しながら、その時々々の難題を一貫して自力

れるようになりました。

また組合員の中でも、水稲との複合経営から、切り花専門経営に転換する組合員も増えてきました。

しかし、組合員が増加することにより栽培品目も増えました。

このため組合は、活動の主体を品目ごとの部会に移行し、技術指導リーダーの育成を助長したのです。昭和61年には「花井共選共販」に関する実施要領を定め、他の産地では例を見ない「一本花共選」も始まったのです。

間もなく、若者に限らず町内の農業者も切り花の生産に目を向けるようになりました。

平成3年には組合員90戸・出荷額も8億5千万円、また平成5年には99戸で10億円を超える出荷額を達成するまでに急成長を遂げたのです。

この間、昭和63年以降降霜用タンホール箱のデザイン一新やJ.Rのクールコンテナ輸送の試験・新品種の試作栽培・圃場の整備など、生産・販売だけでなく試験・研究にも力を注いだのです。

このほか、平成3年からは栽培技術向上のための「花卉品評会」、町民対象の「フラワーアレンジメント講習会」の開催や海外研修、ファクシミリによる通信網の設備などを積極的に取り入れ、組織をより強固にしていきました。

で解決してきた当別花卉生産組合。

その影には、当別農協や農業改良普及センター、花市場関係者、町など、花に係わる幾多の人々の支援・指導があったものの、それにも増して賞賛すべきは、「組織の和が総員の利益をもたらす」を合い言葉に、ハウス栽培の積極的な導入や時代を先取りした洋花への転換、花市場の開拓、優秀なリーダーの育成など、自らの努力の賜物に他なりません。

昨年の販売額は約1億6千万円。当別の花卉生産は月形町に次ぎ全道第2位の販売額を誇り、さらに毎年その差を縮めつつあります。

町内でも水稲に次いで第2位の粗生産額を上げるまでに成長し、今当別の農業を変える大きな原動力になっているのです。



シャンシャン馬ソリ



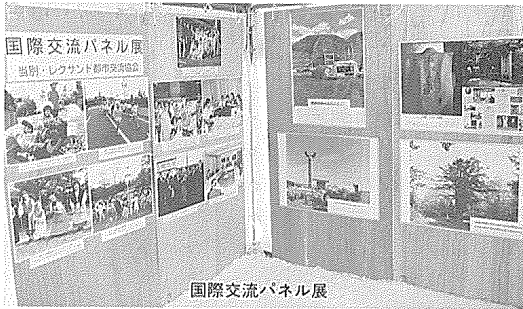
子供たちに人気の
カクレンジャーショー



大歓声があがった餅まき



子供綱引き大会



国際交流パネル展



冬の夜空に咲き乱れる花火大会

この後、恒例の打ち上げ花火大会や子供餅まき・ビンゴゲームなどが行われ、防寒服に身をかためた親子らの歓声が上がりました。

続く17日には、子供たちに人気のスノーモービルや今では懐かしい馬そりの同乗会、チューブの滑り台が解放されたほか、子供たちに人気のカクレンジャーショーでにぎわっていました。

最終日の18日は、親子PK合戦や綱引き大会・親子ふれあいポイントラリー・餅まきなど様々なイベントが繰り広げられ、訪れた家族連れは冬の祭りを楽しんでいました。



大勢の家族連れでにぎわう

第14回

あそ雪の広場

スノーフェスティバルinとうべつ

テーマ

「親と子のふれあいを求めて」



開会式で挨拶する伊達町長

2月16日から18日までの3日間、当別町の冬のビックイイベント「スノーフェスティバルinとうべつ・第14回あそ雪の広場」が、元町の阿蘇公園で開催されました。

「冬のひとときを家族で楽しんでもらおう」と、昭和58年から開かれているもので、今年も町内外から大勢の家族連れや子供たちが訪れにぎわいました。

運営は、青年会議所など35団体が協賛する「同広場実行委員会」神田光男会長。

このほか期間中は、町内各商店などが店先に雪像を作って参加し、毎年町を上げて取り組んでいる祭りで。

会場には「親と子のふれあいを求めて」をテーマに、子供たちに人気の「くまのプーさん」や「ゴジラ・ガンマン」、高さ約9メートルもある「ミッキーマウスの滑り台付き大雪像」など、大中9基の雪像が見事に完成しました。

前夜祭は16日の午後6時から始まり、照明によって鮮やかにライトアップされた雪像やファイヤーストームが燃える中、「とうべつ太鼓」の演奏で開幕、祭り気分は一気に盛り上がりました。



冬の1日を楽しんだ当別高校の雪の祭典。オバケのQ太郎など、手作りの雪像12基が並ぶグラウンドでは1・2年生の全員約330人が、ボブスレーリレーや玉入競技などを楽しんだ。(2月9日)



「全道新人選抜大会選考会」を兼ねて開かれた管内ミニバス大会。札幌を除く3市3町から男女32チームが熱戦を繰り広げた。当別からは当別小と西当別小中心の男女各2チームが出場、女子の太美チームが4位に入賞しました。(2月10日～12日・総合体育館)



地域に役立ちたい——と、お年寄り世帯の除雪に汗を流す当別高校生。除雪作業には約140人の生徒が参加し、北栄町などの14世帯に喜ばれました。1月から始まり、3月下旬まで毎週1回続けられます。(2月16日)



みんな初体験 七宝焼き講習会

ブローチ・スプーンなど、七宝焼き専用の台に色とりどりの釉薬(ゆうやく)を載せて焼く七宝焼き講習会。地域交流の一つとして当別高校が初めて開催したもの。講師は同校の長谷川恵教諭で、参加した町内の女性15人は思い思いに色付けを楽しみました。(2月17日)



北欧ガラス展 きらめきにうっとり

後場一階ホールで開かれたスウェーデンガラスの展覧会。展示作品は、ス・交流センターのガラス工房で製作された色とりどりの花器やボール・ペーパーウエイトなどの約100種類。訪れた来庁者は、北欧の伝統工芸品の美しさに見入っていました。(2月14～16日)



西当別小で新1年生の体験入学

4月6日の入学式を控え、西当別小学校で行われた幼児教室。新1年生の体験入学で、昨年11月に続く2回目。1年生の教室に入った子供たちは、先生から名前を呼ばれると大きな声で手を上げ、もうすっかり1年生気分。学校探検のほかクレヨンでの図画、トイレの使い方なども習いました。今年同小には男子47人、女子48人の95人が新入学の予定。(2月19日)



町婦人大会に約200人

講演会のほか親睦ゲームなども行われた町教委・町婦人団体連絡協議会主催の婦人大会。「地域いきいき・まちづくり」がテーマの講演会(写真)では、当別小学校の河地良一校長が、女性の活発な社会参加も呼びかけました。(2月19日・公民館)



北欧の伝統工芸に挑戦

主婦等14人が参加したスウェーデン織物講習会。講師は、獅子内に住むアン・オービ・オルソンさんと原田せい子さん。参加者は木製の織り機と色とりどりに染められた毛糸を使い縦横18センチ四方の壁掛けの製作に挑戦。アンさんの図柄に思い思いの毛糸で織り上げていました。(ス・交流センター、2月22日～23日)

まちな話の話題

こあれ

こんにちは 保健婦 です



当別保健所
米永弘子さん

「コレステロールに用心」

私達の食生活は豊かになり、洋風の「こってり」とした料理が好まれるようになりまし。

この影響で血液中のコレステロールが増え、知らず知らず動脈硬化が進行し心臓病や脳梗塞等重大な病気の原因になっていきます。

当別町の基本健康診査で発見される異常所見は、従来は高血圧が一番でしたが、最近は高コレステロールが一番多く、総コレステロールが220以上ある人は男性では26%、女性では46%にも上ります。(平成6年度調査、40歳以上町民1,523人中)

②野菜は毎食摂ろう

野菜はマヨネーズやドレッシングを使うサラダよりも、お浸しや煮物・即席漬物として摂る方がベター。

食物繊維の多い野菜やきのこ類・海藻類は、コレステロールを体外へ出しやすくしますので、積極的に摂りましょう。

③特に夜の食事に注意

夜に脂肪の多いものを食べると、筋肉に取り込まれて燃焼する昼間と違って体脂肪になりやすいことが分かっています。

1日3食きちんと食べ、夕食は和風のおかずを主にし、夜遅くや寝る2時間前には物を食べないような生活習慣が良いようです。

①脂肪を減らそう

油は大さじ1杯で120カロリーもあり、こはん82グラム(茶

④肉の選び方

肉の脂身には、飽和脂肪酸と言うコレステロールを高める脂肪が多量に含まれています。バラ肉よりも赤身肉を選びましょう。また、肉に偏らず、魚を摂るよう心がけましょう。

⑤バランスよく食べよう

脂肪や炭水化物に偏ったファーストフード型の食事をしていくと、足りないビタミンやミネラルを補おうと、脳は「食べろ」という命令を下します。ハンバーガーをたくさん食べたのに、まだ何か足りない、そんな感じになるのです。

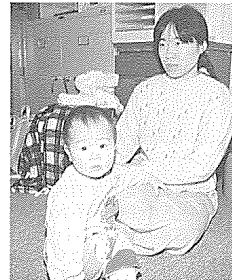
ビタミンやミネラルを摂ろうとする体の自然な働きが空腹感を作り出し、またつい食べてしまう。それがお菓子だったりスナックだったりすると、いつまでたっても必要な栄養素は補給されず悪循環を作ってしまうのです。

ちょっとした工夫で、自分自身と家族の健康を守りましょう。

同じ素材でもこんなに違う(1人前熱量)

マーボ豆腐 379 kcal VS 冷奴 80 kcal

健診と相談



対象者には通知します。

母親学級

【コース「安産のための準備」】

とき 3月7日(木)

受付 12時50分～13時

会場 母子健康センター(緑町)

乳幼児健診

股関節脱臼検査

対象 満3～4カ月の乳児

とき 3月11日(月)

受付 13時～13時30分

会場 当別保健所(緑町)

料金 1,240円

10カ月児健診

とき 3月12日(金)

受付 13時～14時

会場 母子健康センター(緑町)

4カ月・7カ月児健診

とき 3月11日(月)

受付 13時～14時

会場 母子健康センター(緑町)

4カ月児健診対象者には通知します。

予防接種

個別接種(一部医療機関は予約制)

【DPT】(ジフテリア・百日咳・破傷風)

対象 3カ月～90カ月未満

【DT】(ジフテリア・破傷風)

対象 小学校6年生

【麻しん】

対象 12カ月～90カ月未満

【風しん】

対象 1歳～7歳6カ月未満の男女、中学生の男女。(過去にMMRWワクチンの接種を受けた方、風しんにかかった者を除く)

【要予約(前日まで) 医療機関】

堀江病院・近藤医院・勤医協
小川通診療所・太美中央医院

Q & A 国保と年金

国保

■医療費と医療費通知

Q 私は現在国民健康保険に加入していますが、風邪をこじらせ町内の病院にかかり2千7百円を支払いました。2カ月後に医療費通知(医療費のお知らせ)が届きましたが、医療費総額が9千円と書かれていました。なぜでしょうか？

A 国民健康保険の制度は、病気やケガで治療を受けた場合、病院の窓口で保険証を提示することにより、かかった医療費(総医療費)

の3割分(退職者医療該当者は2割、または3割分)だけを負担していたく制度です。

医療費総額が9千円であれば、医療費の3割分の2千7百円を自己負担していただくもので、残りの7割分は国民健康保険が負担するのです。

つまり、病院の窓口では2千7百円の支払いでも、総額では9千円の治療費がかかっているのです。

医療費は年々増加しています。医療費が増加すると、それに伴って保険税など皆さんの負担も大きくなる場合がありますので、医療費の節約に心がけてください。

医療費節約とは、「病気になっても病院に行かない」と言うことではありません。むしろ早めに治療を受ける方が、病気を悪化させてから治療を受けるより医療費の面で節約になる場合もあると言うことです。

定期的な健康診断の受診や重複受診をやめるなど、チョットした心がけて医療費の増加を防ぐことができます。皆さんのご協力をお願いいたします。

■国保税の完納にご協力ください

国保税は国などの補助金とともに、皆さんが病気やケガをしたときの医療費などの支払いに充てられる国保運営上欠くことのできな

年金

大切な財源です。滞納があると、他の国保加入者との平等を欠くばかりでなく医療費などの支払いに支障をきたします。皆さんが安心して病院に協力できるよう、国保税の完納にご協力ください。

忘れていませんか/保険料

国民年金に加入している第1号被保険者(農林漁業者・自営業者やその配偶者、学生など)は、毎月保険料を納めなければなりません。未納期間があると満額、または全くもらえなかつたりします。納め忘れが原因で、満額もらえず「がっかり」することのないよう、毎月自動的に納められる「口座振替・自動払込み」をお勧めします。

手続きは、口座取引印と預・貯金通帳・納付書を持参し、町内の金融機関・郵便局・役場年金係(郵便局を除く)で申し込みください。

年金手帳を大切に!

国民年金や厚生年金に加入すると、記号番号や加入年月日、氏名などが記載された「年金手帳」が交付されます。記号番号は、年金の制度ごとに

1人に1つが生誕使われます。加入期間や保険料納付済期間などは、全て記号番号で記録・管理されますので、同一の制度で複数回の記号番号を持つ人は1つに統合する手続きが必要です。

手続きは、国民年金は役場国民年金係、また厚生年金は社会保険事務所で済ませてください。

年金手帳は、年金を受けるための大切な手帳です。大切に保管してください。

口座振替拡大キャンペーン

で幸町の伊藤さんが当選

昨年10月から12月までの期間中、国民年金保険料の口座振替手続きをされた方に、抽選でペーパードライブ券が当たる「国民年金保険料口座振替拡大キャンペーン」には、全道から3,987名の応募がありました。

当別町では伊藤千恵子さん(幸町)が当選しました。

おめでとございます。

役場窓口年金相談日

3月14日(木)、26日(火)
4月4日(木)

年金保険相談所の開設

役場1階住民課国民年金係へ
主催 札幌北社会保険事務所
日時 3月21日(木)
10時～15時
場所 福祉センター(白樺町)

集団接種

【予約不要(曜日と時間は指定)の医療機関】

とらべつ内科クリニック

- 第1火曜日 13時30分～15時(麻しん)
- 第2火曜日 15時～16時(風しん)
- 第3火曜日 13時30分～16時(DPT)
- 第4火曜日 13時30分～15時(風しん)
- 第5火曜日 15時～16時(DT)

健康相談

とき 3月6日・13日・27日の各水曜日

受付 9時30分～11時30分

会場 役場福祉相談室

3月6日と27日の健康相談では、合わせて栄養士による栄養相談も行います。

当別断酒会

日時 3月4日・18日の月曜日

会場 18時30分～20時30分

当別保健所(緑町)

詳細 保健所保健婦係

TOBETSU

お知らせ

役場 3~2330

町職員を募集します

非常勤のホームヘルパー

町は、お年寄りや障害を持つ方の日常生活を援助する、ホームヘルパー（非常勤一般職員）を募集します。

- ▼人数 2人
- ▼条件（いずれも該当のこと）
 - ①介護福祉士の資格のある者。または家事・介護の経験と相談・助言などの能力がある50歳未満の者
 - ②普通自動車の運転免許証を所持している者
- ▼報酬（月額）
 - 有資格者 187,300円
 - 無資格者 171,700円
- ▼提出書類

履歴書（3ヶ月以内に撮影の写真添付）、健康診断書、住民票謄本
 ▼採用月日 4月1日から
 ▼応募締切 3月15日（金）
 ▼試験日など
 直接応募者に通知します。

社会福祉協議会では、一人暮らしの高齢者に食事を届ける「給食サービス」を行っています。4月から配食をお手伝いしていただけるボランティアを募集しています。
 配食は月・水・金曜日の週3回、午後3時から4時頃までに希望者の安否確認を兼ねて届けていただきます。

登録いただいたボランティアの方には、月・水・金曜日のいずれかの曜日を担当していただきます。

▼応募締切 3月18日（月）
 ▼申込・問い合わせ先
 社会福祉協議会（勤労者福祉センター内 212301）へ。

募集します
保母の嘱託職員
 町は、保育所で勤務する保母の嘱託職員（非常勤一般職員）を募集します。
 ▼人数 2人

▼条件（いずれも該当のこと）
 ①保母の資格があること
 ②普通自動車の運転免許証を所持していること
 ▼報酬（月額） 147,400円
 ▼提出書類
 ①履歴書（3ヶ月以内に撮影の写真添付）
 ②健康診断書
 ③住民票謄本
 ▼採用月日 4月1日から
 ▼応募締切 3月15日（金）
 ▼試験日など
 直接応募者に通知します。

▼問い合わせ 福祉保育課福祉係（内線1331）へ。
応募ください
 残したい日本の音風景100選”
 騒音は苦情件数も多く、身近な環境問題と言えます。
 特に最近では、様々な都市型・生活型の騒音が街にあふれ、皆さんの生活環境を損なっています。環境庁では各地域のシンボルとして、将来に残しておきたい音の聞こえる環境を募集し、特に意義のある100件程度を認定することにしましたので、ぜひ応募ください。

▼募集締切 3月15日（金）
 ▼応募方法・問い合わせ
 住民課保健衛生係（内線126）へ
 備え付けの応募用紙に記入し応募していただきます。

医療費を助成しています		
対象になると思われる方など、詳しくは福祉保育課福祉係（内線132）まで問い合わせください。 なお、すでに医療費の助成を受けている方で、健康保険証（記号・番号）が変わったときや他の市町村へ転出するとき、または当別町内で住所が変わったときはお届けください。		
対象者	対象者の内容	手続きに必要なもの
高齢者	①70歳以上の方 ②65歳～69歳で、身体障害者手帳1～3級と4級の下肢・言語障害の方 ③65～69歳で、障害年金などを受給の方	●印鑑 ●健康保険証 ●身体障害者手帳（②に該当の方） ●障害年金証書（③に該当の方）
老人保健法	食事代の減額 ①町民税非課税世帯の方 ②町民税非課税世帯で、入院日数が90日を超える方 ③町民税非課税世帯で、老齢福祉年金を受給している方	●印鑑 ●健康保険証 ●医療受給者証 ●入院日数を確認できる領収証または入院期間証明書（②に該当の方） ●老齢福祉年金証書（③に該当の方）
高齢者（道老）	①65歳～69歳の方で、1人暮らし、あるいは子供のいない夫婦世帯の方（但し、所得などの制限があります）	●印鑑 ●健康保険証
高齢者（老）	①68歳～69歳の方で、当別町に1年以上居住している方	●印鑑 ●健康保険証
重度心身障害者	①身体障害者手帳1・2級と3級の内部障害（心臓・腎臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸）の方 ②療育手帳「A」判定の方 ③精神科医から「重度精神薄弱者」と診断された方	●印鑑 ●健康保険証 ●身体障害者手帳 ●療育手帳、または診断書
母子家庭等	①父親がいない（行方不明・重度心身障害者などを含む）家庭の母と児童 ②両親がいない児童 ※児童（入院・通院）～20歳未満。但し18歳以上は所得税非課税世帯のみ ※母親（入院のみ）～20歳未満の児童がいる場合。但し18歳以上の児童は扶養されている場合のみ	●印鑑 ●健康保険証 ●児童扶養手当証書、または戸籍謄本 ●源泉徴収票（18歳以上の医療助成の場合のみ）
乳幼児	6歳未満の乳幼児 ①入院 0歳～6歳未満 ②入院外 0歳～4歳未満（歯科含む）	●印鑑 ●子供の名前が記入された健康保険証



信号機

交通事故が発生したら

■交通事故が発生したとき、その車両の運転者や乗務員は…
 ① 事故の続発を防ぐため、直ちに事故車両を安全な場所（路肩など）に移動する。
 ② 負傷者がいたらまず救出し、安全な場所へ移す。（頭部損傷の場合は動かさない方がよい）
 ③ 119番へ通報するとともに、救急車の到着までは止血や人工呼吸・保温など、可能な救護（応急手当）を行う。
 負傷者がいる場合は、軽いけがでも必ず警察に届け出る。外傷がなくても、頭部などに衝撃を受けたときは後遺症の心配があります。医師の診断を受けましょう。
 ④ ③による救護をした後は、事故の発生を直ちに警察に報告し指示に従う。報告事項は、事故発生の日時、場所、死傷者数や負傷の程度、物の損壊程度、積載物、事故後行った措置などです。事故報告は運転者や乗務員の義務です。必ず実行してください。

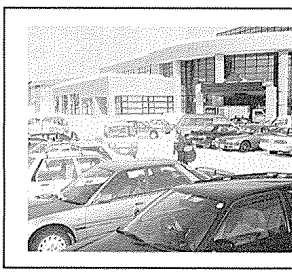
■事故現場に居合わせた人は…

① 負傷者の救護や事故車両の移動に、積極的に手助けしましょう。
 ② ひき逃げなどを目撃したときは車種、ナンバー、色などを110番通報してください。

当別町の交通事故発生状況

（1月対比・概数）

	平成8年	平成7年	増減数
発生件数	7	14	-7
死者数	3	0	+3
傷者数	9	19	-10



通勤通学者は置かないで 総合体育館の駐車場
 最近、総合体育館の駐車場が満車の状態で、体育館を利用する方が駐車できない状態になっておりです。
 通勤・通学などで体育館の駐車場を利用されている方は、極力駐車場を利用しないようご協力願います。

縦覧ください

固定資産税課税台帳
 固定資産課税台帳の縦覧を、4月1日から行います。
 町内に土地・建物・償却資産を所有している方は、この機会にぜひ確認してください。
 なお、縦覧期間は例年3月ですが、地方税法の改正により今年は4月に変更となります。
 ▼縦覧期間 4月1日～22日（土・日曜日を除く）
 ▼時間 8時45分～17時15分
 ▼場所 役場1階税務課

協力ください

覚せい剤など薬物乱用の防止
 覚せい剤による犯罪が後を絶ちませんが、覚せい剤の恐ろしさを二存しです。
 覚せい剤は、眠気や疲労感が無くなったような錯覚を引き起こしますが、薬の効果が切れるとまた

一めちゃんの税金教室⑩

春の足音が近づいてきましたね。今日は、「一めちゃんの税金教室」の最終回です。便利な「口座振替納税」についてご案内します。

「口座振替納税」とは、電話料金や水道料金などと同じように、税金を銀行や郵便局・農協などの預金口座から自動的に振り替え引落として納める制度です。

一度口座振替納税の手続きを済ませると、毎年自動的に払い込まれるので、納め忘れや支払いの手間もはぶけて便利です。申し込みは通帳と印鑑を持

参加し、町内の銀行や郵便局、農協、役場の税務課で手続きしてください。

振替はご希望の納期からでも可能で、都合で解約したい場合は申し込みした金融機関で手続きしてください。

21世紀を間近にした今、税は新しい世代に向けたよりよい当別町を創造するための貴重な財源として、私達の暮らしに活かされています。



なかじま まさひろ
中島 正博さん(春日町・39歳)

2月16日から元町の阿蘇公園を会場に開かれた、「第14回あそ雪の広場」の実行委員会事務局局長。各団体との連絡調整や会場運営など、多種多様な雑務をこなし、祭りを成功させた功労者の一人。前・当別青年会議所理事長。自営業。

当別町の冬の一大イベントとして定着している「あそ雪の広場」。

あそ雪の広場は、参加諸団体が集まる前段の実務者会議での決定を受け、実行委員会が各団体との連絡調整や全体の進行管理・許可関係などの一切を受け継ぎます。

今年、この実行委員会の事務局長を担当したのが、昨年末まで当別青年会議所（JCC）の理事長を務めた中島正博さん。

あそ雪の広場は昭和58年、「親子で楽しめる冬季間の催し」と、JCCの呼びかけで始まった雪祭り。第1回目の開催から中島さんは、毎年JCCのメンバーとして雪像づくりや事務局員として活躍してきたベテランでもあります。

中島さんは、「忙しいのはみんな同じですよ……。」と、現地本部が設置された1月31日から本部に詰めてばなしの毎日が続きました。

中島さんが開け閉め。このため、自営業の仕事の方は当然後回し。

「不足の心配がなく助かったんですが、雪の搬入時に吹雪が続いたため、ゲンシが入れず急きよ水をまくバブニングもあつたんです。」と、苦笑します。

また、今年は開幕直前まで暖気が続き、各団体の雪像の仕上がりにヤキモキさせられたそうです。

閉会式の後の餅まきを終え、重機で壊される雪像を見ながら中島さんは、「それぞれ仕事を持った中で、また当日までに完成しなければならぬプレッシャーを背負いながら、連日コツコツと雪像や会場づくりなどに参加された方や関係スタッフの皆さんには、本当に敬服しています。今は、みんなの協力で無事今年の祭りが終えることができ、ホッとしたいと思います。」

来年も、より楽しい祭りになりたいです。と、あんどどの笑顔がほころびました。

編集後記



シンボルマーク
キャラクターの「こめちゃん」

■新入学園児をお持ちの家庭では、お子さんが4月に学校や幼稚園、保育所に行く日を指折り数えているのではないのでしょうか。

何かと準備に忙しい時期と思いますが、忘れてはならないのが、交通安全の教育です。

交通事故に遭わないために、正しい道路（横断歩道）の渡り方や信号機の見方、道路では何に注意しなければならないのか、お子さんに教えてあげてください。

幼い子どもの事故は、防ぐことのできない災害とは違い、親の保護と教育で避けることができるのです。

ですから、一緒に通学路を歩きながら、注意しなければならぬことを教えてあげるのが効果的です。

■仕役の寒暖の差が大きくなる春先は、氷のようになった屋根の雪が大反響とともに滑り落ち、屋根の下にいた人が重傷を負ったり尊い命が犠牲になるなどの大事故につながります。

また、雪降ろし中に屋根から転落したり、新しく買った除雪機に巻き込まれる事故も増えていきます。

こうした事故を防ぎ、素敵な春を迎えましょう。